12
881
25

宮城縣図書館

胡蝶　玉鬘巻三

奏れ名乃事　仮宮　ものゝ初をとゝまてみとゝもとゝ寄云

花そのゝこゝろをしらへやゝ下草に枝まつもゝ八ゝくみる花

こゝろあるゝをしらてゝ八ゝ山ありて八ゝ山花をゝてゝ

初音奏と同年乃ゝとも源氏廿六巻れ三月四月ゝ

とゝゝをるゝと又巻巻ゝあるゝへゝ

やうゝひ廿日ゝまゝりれゝゝゝ

宮　巻巻ゝ仕給ゝとゝゝ

はゝもゝゝるゝとゝにゝゝゝしゝゝあゝ白ゝ花乃ゝ鳥のゝ云　細　彩色

乃雅楽寮ゝれゝゝ

はゝの里ゝあゝまゝゝゝ

てかをそ寄行みてあくれんや古刀ろくとちる紅山里丸
橘花かの袖ちん梅そちらまくしひ面新あて書と刀くし
たり引寄ふくあくもてり紙りまつをる
花
かの里みといまくうやくにりやうひうくり
外みてりやりぬくきとうちをんるんやまとりえくとこ
めをくる清れれたれかあてうるくさんやくく
細
くやを東りあまくしくけるくさはふれくとひにのさ
まのめくくれたいまくようてみくりやうりえたるそ
あるまくきとあるるくや
山里まくち中三面乃りくるくまくさるちをれをくたちを
細
雪清ある時ふ汀ちるくとをとりてくくたくくとくく
きとてあをはくくをてこの紙色あるくとあん
りくさんくくれくうたんもくるくそりくりるひくくめくくを

舟清くくを清ある　於山立庭乃花をとりよりまくをてうくく
紙をぬくくりりんをとるるくくり
いくをたりくをを清くくりりくくをくくめさを清くりりを
於宋　舟乃裝束あるくくくくくを所のあるりひよ情花場ちを於
をくくくくあるる舟とを移陸鼓（レウドウゲキ）をり事や唐船の稱
とりくくるを鼓と艇同りくりを清ある舟於へく
古
水のくたうるる舟をくくりくりをとりまくをを
山面新り非引寄
くくはくくをのくくありりりくくくくるみくくくくくをりりと
あまくくあり紙くり於雅楽寮くくや舟の楽を於とるくくや
中宮六この清里くりくりまくく　宋　社姫や六楽俗と里と
りくり
うりまくりりをたをくくをりりくくくくく

九し女さうしゝ春まいそのを我宿の梅の花と風のはて
りそしんとゝ中宮よりの御ぞうしあり時ゝ
きさの花の感りあまと源氏の君よりの御ゝ
かりの羽やとをきまゝゝこゆるやをいまとあるうちうと
のゝ御ゝと中宮のつひやとくんるや
仏ゝ御やとあるゝ 細 紫上のんも
やゝゝの花をつて仏花のおりを 細 源のんも
清涼殿さをんやあるゝの御ゝてはいくもくあ 仏家 仏花
と中宮へ月をゝゝせんの源のんも
かるゝゝたひとゝゝと花とあてあるひ御へさをゝぬて
細 同六条院の中にと中宮へまをとゝとうゝたこ
ゝへうゝまゝゝ海をとゝるへ侍るゝとも紫上の中宮
ゝとゝゝやゝに同院の中あてもゝやもくへゝゝゝ御

ゝ御ゝとゝ付てゝゝゝ

うるとうさまひく　於家　はしの上のたりうまんひうるの池と中ゑ
の清涼殿の池とはくさてちいさき山をあすれ池の傍
とはんとうるとは中宮うるの女房達舟うるくはしの上
の池へもくに漕ぐをるやうもや　細　中嶋あるやうるのうさう
うれた傍あるやううれとあふくまもれいひうれ
ばあり
東のはるとあり　細　亭うるう
うるうるのうるれんくあつめさせ給へ　於　はしの上のうるれ女房達
とはるとあるうりめとうる給也　細　はしの上うるの女房達こ
うるとはるうやうに第くあうるの也
雑仕舞をとうれうるひうりたとくしうるうるひてうちと
はうかうるひうるうるうれみ使くゆひく　於家　唐船い落れ
舟のうるうちやうり　幷　はうるうるめさせ給ひたうるこ

はうるされんめして舟のやくせうるうの新仕舞をうり女
とのもやはるの同舟あるへ楽人後のうりめや　細　前の
うるめいあるとうるひうるるやも龍ともうるとあるとうる
うまうひうるあるやも舞人風とうるをうるく行めうれうるや
もうるうるくせてはうるはるさあるる池のなうるに行うそうれ
そ於　つうきも唐ものやうよ出うはうまや
まうとにうるうるぬうるうるうるくうんもうるうれるはあり
うるはんあるうるぬ女うるうるとうるとうるとうるはるうる
まうるをうるぬ女房うるとはもうるうるへうるはやうれ
　　やや
中嶋はしの上のうるをにはうるをうるをうれうるうれうるうれ
もうるはるもうるうるうるうりうるうるんやうるうるうるうるうるを
うるあひうるうるとも　細　前の山乃未たうち中嶋のうるうるとうも

とをくてとをりをてのうち
あるさとをひきてさをとしに行まうへつくしやんやう
まていろとまりある　宗　梅上に蒲花と云語あり
柳えんくをそれをれとうもいもぬあるひとちらしたり
ぬ　ぬ　ぬ　

而白さうをんありたるさんせ 後撰金葉 百義八ゆのくこんそて
もと山ちまやへあ〜くんの言つ迄とせん
風力をハ波乃花ちへと乃さてそやみりさて所山吹乃ちきさ
家れ乃白そさるに俤ハ雅ともち中宮けさ山の蓋
迄とものうめる音の吹へし山吹乃清さ宮ちりあり
さちうくくれさ後乃よさて所宮ちれ山吹の清とうあ
つ ちの一流を以四うこ宮ちり山吹乃俤有同乃色蛙
聆日礼ちん山り来りてうるやさて山吹のちき
るとつあるとうやりてあ〜乃中うるちゆく 細 山吹の
さうさハをいとうと以かあて音のあもんくこ以くうとも
音中音の清ものくこみるこれやくくの乃音のちり
俤ちハちくく雅ちるもあり
音の池や射ちれ以俤ちんん岸乃山吹音ともありうるる

於山鮒ちとちるくく射ちれ以俤ちりくくるとのくや山吹花
池乃水鏡てうちひく色白さ後ちとうあつと
亀のうへ乃山とさうひくあのうちに色であんとハ色にのこさん
亀乃うへの山とハ蓬莱山乃ちやうこそ不老不死の菓さ
ちの菓宮乃船中にあるとて蓬莱山と求くとも
河不覓蓬莱不敢帰童男卯女舟中老 白氏文集
蓬莱山負亀背池 細 くさ不老不死乃菓ハ以六菓俤也
別り蓬莱ちるくくて八求ちくくちるや
音の日れうくくにちくくあ以舟ハちけ乃音ちを花そちうちあり
れ 音の時菓の池乃色宮加りさくくあれさけの中ちうと
さちうくく花乃義やくくちるやちるや 細 眼花の音ちも
うけくくさうのや
ちるとやうれちうれさくくとんくくふひうくはくくちうと

くるこんさとことひきあへうちのこのこをとりもそこに
こうとあるわのはもいちん書くこ海かとに 於院中ゆへこの
出とことのやうこうるこん里とのひくといつる西白とや 細
武陵の桃源ちとのこ
ちうこやこいかうくいと行もこ雪ゆるに 於宮鹿草 細
平泉寺や 第 云別義とや 江海ごろ〜略く
くあとあ〜こ〜けう屋ようきこ来て行うぬ 於行を
寺中にあ〜こ〜代ちこ〜ゆのんや日とこや書ぬう行
りくあとあ〜ことや
このこ〜ひこそさちうさあこ海ようあ〜さんはうこく
のこうけくへとこれをやこ〜こけくしあるけうこくあさ
ち 細 ひけうと屋こさせる蔵とと世けう行や 第 鹿草
ちれと月こるうあるこや

花とこけまをあるあ〜こにはこ〜こんこけうこうにあ
きひあつこうれるあくこをはこうまうる寺へるとこうこと
にここ〜こうを行こくへの行へきこのうこうとをけくこを行
おり入ぬきこいとあこあ心ちこて 花 海(サン)上蒲(ニシカ)花とこ行あ
こ海こけこうけこうへこに花とこへここき事
こここんへこここるへきこんや移活り用ちは又別ちこあ
行まへ乃屋りこうこやここて 細 堂上あと楽とこるや
時階乃もとの毒れこへに楽へめこてうむここちめここちと
ちとのくこをこあこあこのここりくこにこ行ふ 於第 舟遊の時
乃楽おこくとこにこうここ 乗へめこ〜こ〜こ
あや
和乃師とこと 細 まひへや

[illegible] 宋 楽人のよりとも也

[illegible] 宋 双調黄と可る調なるべしと也

細 黄乃ち〻人なれども也

[illegible]

[illegible] 於庭上れ楽とうつ〻ゆるる如へ〻

[illegible]

[illegible] 於 安るみる 俗るる宋呂のうひものや

[illegible]

宋 [illegible]

黄乃ち〻人ハ[illegible]

也 春 双調 夏 黄 盤涉調 秋 平調 冬 盤涉調 一越調 中央也

黄ハ一陽と物の〻〻へ也 物を生人いつに及ひ黄と

行人を[illegible]

人〻於[illegible]

於 六乗律ハ春秋と[illegible]

[illegible]

[illegible]

時をとりつとて[illegible]

俗調也及言也 細 律まるる也 元 新黄楽八黄俗調

の楽也平調ものとく〻

新黄楽を呂也[illegible]

[illegible]

宋 [illegible]

[illegible]

[illegible]

を　於　寄柳梅　十二信　寄生　寄序　あとゆ　さ　ゆ　ゆ

とゝ　ゆ　ゆ　ゆ

[illegible]

源氏の集のことくくはくれもとりとりとのんや

玉鬘巻こゝろをつくしてもとのことくくれまうこれ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

れ 紫檀の浮殿はれたる所のうちもそこらこれやこれにこそ
したるさまどもとうり
あるべきさまとれ紫檀の浮殿はいとはなはだ
ろうしきものなるんやうもいとうるはしきさまのんとも
ようひたりとれとんにんるも 細 うやうやしくとはいまるる程も
やうもあれしさまどもあるものとさてこめてはなはだもとせあて
さてそうかとはうろ殿 れ 玉鬘さまに玉鬘はれるもとく
ものあるとんうりさてこの宮ちとこの鼠
のうちこのまーうーはんーさらとあーうれとあーしん
家の知時も 細 ひ鼠のうちもあるもうるはらさそひ
れもれさきをまてこの殿しるそとも
はうらうもれはつあるもうるやうはつく
細 源氏の浮殿れはうるんにうるんのとうはるやまて

なやむとんるかうるの酔あるこのうちとーはさまど
あるうるんはるもとなるさるもうるの
はるもとはるんもれとるもるるもるの
出あるんもれとるもるはるはるはるの殿れ退
るうるをあまーとはるうるもうひ殿とはるはるのとまま
るうるるるるあるるの殿んも
るうるるるる

みて関よりとのきんを行ふてぬうしや細殿と関
ゆるあるひの中接攝うきうとあるたのよあつ殿れたる
きたんそこ井もゝぬうとのあうさうぬうとゆうり
ぬ物語みん多とも
宮てゆゝしたるよりうきゝとてなれ語 於源氏
きうんの殿花とうとくく盃とゆゝ語るとある
ゝうきゝとハうゝハきゝ校のんもわゝ我宿とうの
むうゝのよゝいゝゝわるゝうきゝとゆゝそいせあ
ぬきんのうとうきゝみゝゝんうけうとあるゝうきゝれるうや
帝うきんきうんハきゝ校よあゝゝきをハゆるゝうきゝ
とのゆゝをなん行ハゆううきゝとゝきゝ語るも花うる年也
同 細殿 ゆうゝうきゝゆゝんの殿のうの花のうきゝゝや
いとゝうきゝゆゝうゝて 源氏乃時さ殿也

ゆうゝ源氏ゆきをゆゝゆゝ花ゝゝゆゝ立ゆゝてゆうよ
於源氏 源氏をゝうゆとハゆきをゝゝせゝうをあけうゝとゝ宮
ゆゝ遊殿ゝゝゆゝうゝゝゆゝの殿ゝまゝうとゆをあゝゝ
とのゆゝんゝとゝゆゝゆゝんゝ細 ゆうをゝたうゆゝゝゝ
てゝゝゆをゝ源氏のゆうゝゝゆうゝ殿也
ゆゝゝうゝゝゆゝハゝうゝゝゆうゝゝゆゝゝゝゝ語ゝて宮ゝれゆゝうゝ
ゝゝゝゝ

とも　羽　六条院まてあり　宮人も　例　細　三月　延
引　なる　女房　二月　なる　なる　なる　例　宮人
宮　清涼殿　八大般若　なる
やうてまうて　行うて　やう　宮　宮人　なる
ひの　清　ひよう　行　なる　宮　法師　花の
法　行　宮　なる　なる　なる　なる　なる
なる　なる　なる　なる　なる　なる　なる
法師　やう　なる　なる　なる　なる　なる
事も　羽　一勅　なる　なる　なる　なる　なる
つる　ひ　なる　書　なる　なる　なる　なる
なる　細　宋　なる　なる　なる　なる　なる
宋　なる　なる　なる　なる　なる　なる　なる
なる　なる　なる　なる　なる　なる　なる
法師　なる　なる　なる　なる　なる　なる
法師　なる　なる　なる　なる　なる　なる
なる　なる　なる　なる　なる　なる　なる
なる　なる　なる　なる　なる　なる　なる
なる

宮人が結び相てまゐせらるゝさ函数へし蝶うるの華人
のるもや 細 宮人はうるさうるとも仕花とゝ弱や
多蝶下ゆうそ花うもをたるわゝうへ八人くるもちもとゝとう
くのへさもを結てうるとに多をちうひれ花ゆみ橘をとゆゝ
てうるハこうひれゆみ山吹をとゆるゝ〳〵さ花乃ゆるさもいゆゆ
しうゆうるれゆうひをゆゆくさを結うゝれ乃のゆうへ乃山
ゆうゆうるもちゆさ出て 孔雀明王 ゆうるゆみ紙すて瓶をとて同橘
とさもし蝶みて今ゆうく同袖や大略八重花乃物ゆれと
も家八年ゆ花をさすゆゆうるへゝゝうへうを書女函へし
平 花ゆれをに華ゆうるとゆう花瓶もちるわゝへの別書
蝶の華人ゆうへさを一勅ゝへゝる蝶ゆ華人ゆうを
ハとの世みをゆるうゆ 河文武天皇清宮に法射る図
始献白銀壱武天皇清宮に陸奥図始を黄金九百

西さ花むうゆれをハ花乃色うをうひく今紙う
さのへゆうゆ八花を法うう花うゆうをを下の紙を
ゆゆれさうゝをゝ〳〵おうちうゆうゆゆ紙ゆを
細 華人をう
行ゆうへうゝうゆうかとゆゆうをゝてゆ社姫中宮ゆ法うゆゆ花
うてゆとハゝる蝶の華人ゆうを池乃舟を華くゆうゆ
細 晩日のゝくに舟うのを法ゆ
うゆゆ橘をゝゝうゝうゆうゝうゝうゝれてうすゝれ
ゆううをゝうゝうゝゆうゝれをはうをれうゆゆをゝてゆ
細 飛花ゆてハうゝ宮乃ゆゆ
ゆをゆゝうゝをゝうゝうゝゆゝ 宋 楽屋ちををうう
うゝゆうゝうゝうゝうゝゆうゝてゆ行ゆ見ハそれ
をうへ晩ゝてうゝをゝ楽屋をうゆへうゝをゝ乃

ゝらとうこ 細 多蝶の舞あるかとに楽屋可有と想略せ
らるゝや 河 平弾 於 拍子 なるくあまくそうるとをうろ
うゝわると
はまりへうわくまろうとかくやのさあすして 光あるれ
ゆつれ廊をたゝれ楽屋うちうるや
うとにはうゝとゝもとめゝたうるゝへとゝこうゝれとに
うるとて花ともたてまつる 胡蝶 はるゝ 第 ちやうさのうるや
胡蝶をはかれ紀おうゝとゝあうと楽人の花とうふ河あや
まるゝ 平 胡蝶 ふるとにうゝをたうるゝへゝ
河 惚等 細 花 花 用 ゝ
行きれゝくゝうとつゝてあうにうへさを行ふ 行ふうう
るやうゝへうもうふむゝとを行るのゝくゝうゝ
はゝうてあうのくゝうへあるゝや

はせうゝこ度の中れれ 第 はゝ上うゝれはゝ役々当や
花そのゝこゝてゝをはへやゝ第にれはまうゝゝゝうゝくゝみうゝん
於 第 はゝ上 高 花 それくゝゝ蝶のゝとひうゝゝて面ゝとゝれとぬ
一 はうれうれはゝうゝくはゝれうるうゝやうゝゝうゝゝんと
八れうゝくゝはうれうゝゝ細 れれ中 れゝれゝはゝゝゝ
て行れへゝゝゝれれ出ちゝはゝれ蝶ゝゝうゝゝうる
るゝゝゝや
宮うの紅葉の御はゝれうゝるゝゝゝ

蓮のるもとまたうるとも吸日とうるも 細同
ゆうりまたはえはとさをたまうるとけうとも 仏 女房歌 細
やゆうふ中宮の歌とはとゝ〳〵ゆとゝもさてあるまゝ〳〵
のうゝるも

花うりはまつ中のうゝあつう 歌あもかゝ〳〵と今ハ情をあう
行〳〵とやあつるも 細 情とわも
宮のうゝうれるまたとるもれ歌とれやうにさゝゝさられあへ
をつわるもとうゝとうゝるうゝ中へはうわるに
れ るのうゝれ打節宮れるれるもあひよわひうる行も
花 る八越細の歌やるれ歌うり感して花よ鳴宮と池の
鳥とうへつるうとゝけうゝうゝるも
細 打節宮れるたる言も宮の歌うりあつう
さうにあうゝうるあるゝ〳〵 細 るのゝもも蝶八月中

歌也或孤るれまうり傳されてまゝとの宮とわるとゝ
きゝ仏蝶の歌うり海〳〵との蝶と孤中と云俗あり云用之
てつへまゝてゝうれゝさうゝにゝひうゝひてやゝゝあれつまを
のもとゝされゝうまたるれれうまにまひうるに れ花るまハ蝶
つ歌の打節歌れ蝶ゝ歌うてゝひうゝとのれゝうゝ宮孤
孤ハたゝ蝶の歌ゝうれゝさにゝとゝ月つる可孤とゝう
花 蝶ハゝゝゝ院法時孤ゝゝゝ歌や中孤ゝ孤ゝ月ゝゝ
ゝ花孤ゝ歌ゝゝゝゝれハ蝶つ宮ハ歌ゝのまを孤
もゝ〳〵歌へゝゝ〳〵一ハ蝶歌ゝ感して微のゝゝゝ宮
のまゝ〳〵歌へゝゝゝ月ゝ月ゝたうるれ歌ゝ池つわるゝゝ
れゝ〳〵はるゝゝゝつに対ゝて月ゝ人ゝゝゝ 歌 歌人ゝまゝ
との蝶と孤れもゝ歌れゝ歌ゝゝゝゝるの歌ゝ言孤ゝて
とわゝゝゝゝゝゝゝ 一孤 蝶ハたゝ宮孤歌つまゝ

ものゝ人〻用ひ侍るべきうゑ
宮のもとゝ紙をうしめて侍るべきうゑ
て　第中文のたゝ文ともゝ云ふべきうゑ　細中文のすゑも
ものゝ人〻ものゝ侍るべきうゑ　細名蝶の言も
とゝ侍るべき梅花ほそ侍るべきうゑ
うゑぬゝ侍るべきうゑ　細名
てゝ侍るべき山吹うゑぬゝ侍るべきうゑ　於女の装束なども
ひゝ侍るべきうゑ　細此ものゝ八織ものに花を織ものゝ
まゝ中文侍るべきうゑ
侍るべきうゑ　花
侍やうゑ侍るべきうゑ
しゝ侍るべきうゑ　花梅山吹のゝ言も
ものゝ師とも八　第人〻ものゝ

ものゝ侍るべきうゑ　細長ものゝ侍るべきうゑ　於梅の侍るべきうゑ
侍るべきうゑ　細同
侍るべきうゑ　細同
侍るべきうゑ　花
侍るべきうゑ　花腰
侍るべきうゑ　花
侍るべきうゑ　於中文のうゑ
侍るべきうゑ　於女の侍るべきうゑ
侍るべきうゑ　於夕顔も女の侍るべきうゑ
侍るべきうゑ　細八袈裟衣も花みな中文
侍るべきうゑ
侍るべきうゑ　於中文のうゑ
侍るべきうゑ
侍るべきうゑ
侍るべきうゑ
侍るべきうゑ
侍るべきうゑ
侍るべきうゑ

於中宮清涼殿の上れ初て南の池れそなるこすとそ〳〵とと
あさをなるとをいさるれ山をくるそのせたりこせられ
山くもり八重桜をとやへ山あてくてあるやうりこ
なる行末上のふありてをくるて行くるひ中宮のちを
をれ行うんとも　細　ふあるとて藤なつひををいをくるれ
蝶りさそをれてをまつうるれとも
山をそ家あるをくれあるをうくるもに　第　家をと結をれ年
労也例乃式アう我と早下して山つる初也　於　上鷹乃
事也秋好中宮紫上ちとのるを也はにつををいを家れ
をとををうるをとをつやうあくををと山つるを行も〳〵早下
乃ようをを又枝藤袴をと対のんくをやうあくををとをひ
あるをををく花中宮をををを紫上をを家あをを功のへくをくく
をれと対をくてはをくををを藤袴をくん

の羽如へくをを　昇　をうをたちの家のあをたくくあをを
をををを　細　紫上又中宮りををる南対鷹ををれ人
は雅をあくんををれは家をるをを一緒をあるへををを
ををををるをのををれは平絵家のはをやうあををるをを
草子地よ詳をるを　於　をくああやと作をん初奇乃をを
早下也
ををへ女房をんをつやうみをををぬはををちつをををあれ
於　家ををををくく結を古しくを行あをを也
ま〳〵とやうの月乃初乃女房たち　於　をある也をを〳〵をとを
と家也　細　姫君舟を楽をくる中宮の所をの女房を也
宮のみを結をくくをあるをとをりあをもををを行をををやう
のをとをくくをれはををくくを明石をにつをををををやうれをを
はあををひををくんをとやををををを行へををたをくくあんをとを

つゝ物ゝひるがへしてゐんこがうれさにとゞ滝のこうゝ
落ゝ水はまことうもとゞ中ゝ之の女房をみそ婦ゝ物語とゝやく
ゝゝうれしむつゝ色ゝこの和歌式ゝ和歌ゝ〳〵 細同
ゐゝのゝきゝの清ゝくゝそゝの之ゝうゝ孔ゝゝるとのはたゝいゐんのゝち
ハ 細まことゝ人ハ踏ゝ之の内ゝゝうゝ也 第伝の清ゝゝ也
こゝるゝゝあゝとゝ雪ゝゝうゝ〳〵落 第伝の清ゝゝ也
滝ゝゝ清ゝんゝもゝちゝあゝや滝ゝとゝんゝあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
あゝゝとゝあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

つかうまつりたまふ　於　宴　舞　大
將　見る中納言　細　玉鬘　と　合　る　人　多　也
とのゝ　ものとり　細　雅　も　ゆ　て　ゝ　ゝ
ものし給　人　と　あ　ま　ゝ　ゝ　の　ま　ゝ　細　玉鬘　と　合　る　人　多　也
されど　おとゝ　ゆ　ゝ　ま　た　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
の　清　心　あ　も　ま　ゝ　ゝ　に　於　宴　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

とハタ雪ふり立てるひとりて武蔵野のをとひあり
くらもや 細 相模なるとも先ハ宮乃兄弟なれ共世
もつひさくこ行や
そのくれあてれあてしてはくてきくにくるくうまとの
ゆやうりさくもたくまなりあくれとひとまひくろる
うを行へれと 於 武蔵野ハ物なこのくれなれあてしな
らすゆるもの中約ハ宮ハ物行へハき
しさくこ行くんくるくさくも 幾乃親子きく行こ
きとも
武蔵ハ内の大屋敷まと我はくいと物行つ者に
我をきくきくむとそれくるの家めもあくてすり
くるくくこ行くくふふしてあハ間たくくくくとこ
らせまくくと行くくるくとくくくく

さやうあくくくくくるし行くひ 細 宮氏親よあひまくくく
やくくくくとくくくくに添くくくくく行くぬもや
ひくくくくくくくを奥くくくくくくくくくくくくくくを
にくくやくくくりあるとハるをれと 於 武蔵氏源氏とあのこ
行くくくくくを於くくくくくくくくくくくくくくくくを
あくくくくくくくくくくくくくくく

のとやうにわりてまきをはるひのあるひはそこ
はりまぬきて八月彼岸なり
きいの清うらにんぐれ清うらと細西対也
むうつ〳〵 第 源のんや也
うつりやすきものうはつそこもとれたるとらと結ひつけ
らんし 細むうつれうつりかへるやされも
こそやを源のゆりひくいとのうつりやすきを結ひるとをると
ひるへうをみてけうつりかへりうつりかへるとみてし結ひと源の
清みてるをくて叶まうまうさるとみてし結ひと源の
をしへ物和也
うちうをひたるをうきとんやはつるとうをんのあり
第 むをうれたをとうつり
源とうをうつりかへるをうつりかへるをうつりかへる

ゆんふうをとうをうつりかへるをうつりかへるをうつりかへる
ようをとをうつりかへるをうつりかへるをうつりかへる
うをとをうんうをうつりかへるをうつりかへるをうつりかへる
第 んいつ〳〵也いつ〳〵しさいちも
うをうやうれたるものとうをうんいうをうつりかへるをうつりかへる
あ〳〵と世のもうつりかへるをうつりかへるをうつりかへるをうつりかへる
うもあるもれあるもゆるうれれたるうつりかへるをうつりかへる
第 むをうりや宗長うつと源氏と清中ようれたる色れたる
みてハ陽んみやとやうれたるちとんうを来
乃世というをうひうり山立年うをてとれうやうにをうれん
のあうをと源氏乃をとをうをうと結とも 細宮ハ源の清道
校とんひをうをうを中あてを一段とをうをうをうをうをうひ
結んをうをれ也れうをあて源をんんうをうをうをうをうを乃

人ぶまあるこ[illegible]ん乃ことと[illegible]ん[illegible]て[illegible]そ[illegible]わ[illegible]て[illegible]帝[illegible]と源

乃の[illegible]也

[illegible]ゆ[illegible]あ[illegible]ん[illegible]れ[illegible]の[illegible]ん[illegible]と[illegible]ん[illegible]ん[illegible]と[illegible]ん[illegible]と[illegible]の[illegible]と

[illegible]ん[illegible]て[illegible]て 細 [illegible]と[illegible]て[illegible]て[illegible]ん[illegible]ひ

[illegible]ん[illegible]ん[illegible]ん[illegible]ん[illegible]ん[illegible]ん[illegible]官[illegible]て[illegible]ん[illegible]と[illegible]ん[illegible]ん[illegible]げき

[illegible]

[illegible]ん[illegible]ん[illegible]ん[illegible]と[illegible]と[illegible]と[illegible]く[illegible]ん[illegible]ん[illegible]ん[illegible]ん[illegible]れ

[illegible]ん[illegible]ん[illegible]ん[illegible]ん[illegible]源氏の[illegible]勇[illegible]ひ[illegible]義[illegible][illegible]如[illegible]

[illegible]と[illegible]と[illegible]と[illegible]ん[illegible]の[illegible]ん[illegible]ん[illegible]と[illegible]と 第 [illegible]ん[illegible]ん[illegible]風[illegible]る

[illegible]ん[illegible]と[illegible]也

わ[illegible]ん[illegible]ん[illegible]ん[illegible]て[illegible]ん[illegible]ん[illegible]ん[illegible]ん[illegible]と[illegible]ん[illegible]と[illegible]ん[illegible]ん[illegible]ん[illegible]ん[illegible]ん[illegible]ん

なるこにあらしもとめもとにはなりさくらかな

河ロウ孔子作ナリコトソヤ何事ヲ不審イフカシン論語ニ曰ク論語長沮桀溺ニ曰ク石門ニ荷蓧ヲ丈人ニ儀封人ギホウシンノ人楚狂接輿ショウキャウセウヨ孔子ニ

孔子ニ

孔子ニ

宮こ行へと　うかき　宗　ちかあきてうれきうへいろし
ちうくしうを宮こ行うに　細　むうこれ者なきぬや
たうとをとりこうてうやうにとうれ宮こんひとをとこへうう
していこへるとにさきをよ　女の歌や詞書や
宗　源のたをよの行列や
きれくしうわられうまきこうまやれへうひんをいこと
してるこれるとのこれこうあこうぬことちう
乃　ひこれてうとうれうあこうこまやとやうハ面芝やうれへと
こんやいうまをなをれへうるや
見れあてうひこに　宗　源氏の御方あてこうれよあうこう
ちをけうこうよあうるれ南をハ女四こうこうこさ
迷とをとうをはつけよあてこうれ家ういんの御とをを見
しうて後こうこんハ可給をうさこてをうれ女のやう

てあつくこうさてあうるとせあをあまうをに我こうが
あてうんこうこさ物こうやめさまこうこうへいさとハさこて
をうれ女やをやけさハをうてひくきこてや
乃　ハ後源の好をあれうをこうこの行列やこうるこうあれ
ハ一宮の恨ハあれとこうこうあこうこうぬやうけて
乃河岩をうあうてをこうこうぬやうけて
細　源乃我あてこうるとや
あを情をうこうあこうこうとそれなうにこそひこんあこうや
細　こうけこそ云こうこうや
ものをめこまこうこうへいきこそいきやこうるとをあをれ
弁　こ程をこうへんのるかを思あこうこんをあやけこうとし
くあをゆとや
わこをとこうこうこれこそにつをこうを所をこうをこと

仏門にまことあるもあるべしとて
人のうるを女は好色のうるにたとひたるべしとて
しきるやさやうにあるに男はまことのぬるあてつ
うるに人をぬるべきことはまことあるものと
うるはんとや 細 たとへの情は物をうることをみる
ものとせられいるきこゆるもひやさけることと
も出来る物やさやうにうることをいとをたを
をうてたべるあるべきとや
ん行さまもてあつる 第 女のぬる色をうるべきもある
んとうる
ありくんてうやうみをあうる人さてこまぬるはまふれたるくあ
森 ひさやうにうるとあひあて中りく女のぬるはたるのみも
るとのんあるべし

物のをうるもれをうるもたるとたるもたるんはあるも
はうてあるぬへうけうは後のちんとあるぬへさわさるり
人をもんのをうるに女りうをやうにはうをみるはを
も女は後の義とやさうてもあぬへうあるやはみるも
たてはるるはは後の義とや 細 人をとはうことはうる
をうちうくみるるもとるるもうるとや
もんあ女の物はくをはんのまくに物のをもしるかうり
行くさことをかくうんるん 行 物をあれ女をうるをうる女
の義をそ物の義をあくれるてはくうを行くをもかんをるを
てをるるもうやうてもるるもまはるるもあくをを物をうを
そのはもりあちをあるへをを 細 をているけをのるうと
あるくめのんや
宮大行八 第 人をを宮をアはや大行八義アはや

行方なくなりぬとなげくこと
なげきなく　元　亦云ふ　ひあんなることと
の給へるも又仁徳天皇の御時ハ武勇の名退りた
うなることなるものとあきとの給へるもそれなりとて下れさきくんさ
しみき亦乃年・労をもかくとくひあ〳〵しらく
給へと源氏物の給へ
又あまるものくほとまくぬやうあんを出ありさ
なりそのさきそうしもいんさくのとまむさにまるひく
ひとれとをとれ行へらうをとうくへ行へるを学ら給へと
於　元　亦云ふ　なるものとくて八叶まくさとのあるを
ひとりうの時くまくるひるへさけつさめや
元　亦云ふ　うちうむさてあるひるうをあいとわくをすり
宋　武勇の給へ

あてしこれはそなうにこうしろの花のつこなるはうちき
宋　西八行ふうくんを書ふ　元　梅ハ白梅　裏ハ赤也　ひはの花を
四月なれハ御花うさひをとりつゆやうく　細　和花也
あをひあちうらいまあさてもてなるとを　於　とと裏
宋　武勇の給へ
宋　武勇の給へ
さいくとあ中ひるるあうこくくくありにあるとうるく
にのくいかくし給ひりくれ　於　たくいくくめうあるとを武勇を
田舎ひさるやうにかくやは源氏ハ三姑ハ田舎ひるるやかく給
しう今ハ三姑ハ給へ可給給へさくくくハ出くくを
さくくくれくやあはくうにのくハ姑ふるを宵くうとい
ちくくあ中ひたくしとのくや　細　たくハ武勇をあ中
むさるやうにかくやさくれと源の清くあくくその姑ハ中
ひくるやかくくやとかくあ中ちくを行や　羽　源ハくくを行の

故なり

人乃詠わりさ海とも月ゑ行ま〻にいとはまよう有るしや
うに有さうちとしんしてもて つを行へきた 宋 源氏の法
花経ちと迄こにつ〻つ行まに奉可給とも
つと〻あるめ所ちく花やにうの〻きちり 花あるめ所る
く八不見ある花ちた也 法花経ハ仏の花ハ仏の花
ちとんとんちまむいとちちわ〻うつうハ法ちる方とも
うちちこ法〻ちんちりて 仏 変え法ち源氏のんも験正方
ちりんちとの物りちきんうに情とのをちられたんも
親と雪〻んみをちりわ〻ありまひり
仏宋 源氏と親とりうんあはあるたにわ〻ありまひるも
手仏ハ源氏ハ舟六宋五験ハ廿三宋れ十四宋れ舟の沖
ちりあ〻きちる法〻ちあけちれとうた方とうんふハ舟

〻ん源氏りそとを行へ〻とのの舟ちり〻ちひ行へ〻
むり〻を行とひて方〻り〻ハ行ひ〻る也
さ〻ちる〻ひ行へ〻んし〻ちあそひて有〻り〻とひ有〻る也
細 源と五験ハ年ハ十三ちりんひ方ちりの入り
ちり〻ん有ちる〻ん也
ちり〻にんのはをりとちとハ中〻りてる〻ちるりハ行〻を
宋 芦ハちとう源氏り参り初也 細 ちとう初源の云行る
か仏文をちれ〻ちる中也
さ行〻ちとちりめ法〻んし〻ちあるうれちりハ行きみ〻
ち〻ちちの中方〻んを中〻て法文方ちりとりれちをし
ちへめれと 仏 源氏のは法〻て法みるりあ迄と有〻りるを
ハとりりまちある中也
はちりハ中〻に雪〻さを行わちるとちんちをちに〻る〻

いとこ[illegible]ゆゑ[illegible]ゆゑ　於南殿行はるゝもとこれ
を[illegible]とゝのうゝ[illegible]ゆゑ　[illegible]あれと源氏を宣給
[illegible]　源氏へ[illegible]初也　細　源の[illegible]
[illegible]也

[illegible]やうに[illegible]
[illegible]れと[illegible]　細　源氏の初[illegible]
[illegible]　[illegible]ゆゑ

[illegible]
[illegible]　第[illegible]と初[illegible]
[illegible]　細　[illegible]
[illegible]
[illegible]

中納言ひかをまゝ[illegible]とゝ[illegible]
[illegible]　[illegible]　於[illegible]
[illegible]
[illegible]

おもちとむかしあるこそひまゆくこゝろあるこゝろをうれしとこゝろをうちとさゝやくこし

うちとくあんまゝひゝやくこゝろ　花　はつかしうれあるこゝろ

ふうかのやうやうとこゝろゆるせもとやあんとゝ

まゝこゝろ　孔　源氏の相撲人のことゝの給ふ

あるこゝろはつかあんとゝもこゝろまゝこゝろそれと

やまゝこゝろ　細　源の相撲よの給ふやかゝ

ゝもこゝろはとうかのもこゝろこゝろあはよ

こゝまゝこゝろ

うれしゝにこゝまゝこゝろうはつかくし

うかのとゝはとに　宋　源氏のこゝ相撲と交はよ

めくとこゝまゝこゝろこゝろはつくしこゝろ

あもこゝろ祇あてあのくれ年頃行ゝとこゝろはつく

とこゝ出給りんこゝはつくこゝの事

こゝ頃年頃行つる清あつにはつくこゝ

めくこゝ行つ　細　父母とこゝれこゝ絶母の清中なれこゝ

こゝとせつ人のはめるこゝはこゝまゝこゝ

こゝはつこゝこゝ相こゝ人くこゝはつる

こゝ付て後り父母こゝこゝこゝ　孔　相撲と可祇縁よ

細　祇あてこゝ可祇人の家こゝこゝ源氏はこゝ

こゝを可こゝ

宮こゝひとゝこゝ行やうこゝれこゝ人こゝこゝこゝあこゝめつて

うこゝひ行つはあまこゝ中のこゝ　孔　こゝ人こゝ宮はこゝはやあすこゝ

祇こゝ相撲はこゝあひこゝくこゝれこゝこゝ一はこゝめくこゝ人こゝ

細　はく祇人こゝこゝこゝ人こゝれこゝこゝ

めこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ人こゝこゝこゝこゝこゝ

雪ゆゑに　れ　ゑうゑ宮へめしうをてあひ給人の我ハ宮ゑうゑ
　　てとゑ宿ゐれとゐつゐ女れさ後あくをたゐるやや
　　細　百人やひゐをゐ也
さやうあくんゐるへあくをあうてゐれとゐ給ゐん人をゐてよ
う　れ　源氏の君ゑうゑ宮へさりてゐひ給ゐん人のんはゐひとの給
　　へゐ宮ゑうゑゐをひぬ色宮ともゐをゐんあをく
　　てゐくくくにありてゐゐるへゐんとやおよくゐゐり
　　あくをゐりてハへよあくをんとや　花　うゐあゐゐゐ
　　のゐひうくんよんくくあひくくをゐるくくにをて
　　宮ゐてを宮ぬへくさいるくて給くをくをあゐ
　　んへを我をくくへをてはあをんへよあををぬへさこ
　　とや武蔵れ法へへをくさ源氏をゐく給ゐあをやく
　　あくくくにをて宮ゐてをんをくくふくをあゐてをへゐり

ゐくをぬ宮れゐをんとのゐくくをてきぬへくくをれ宮ゐんは
ひゐをんあへき　細　ゐをを和るとのにををゐあくくにをひ
　あゐへさやをゐ給ゐくゐゐゐ宮ゐ給へくや
ゐ和ハ年へあるへゐゐくゐ給ひをれくゐをいをひてくに
ををひゐれとくををへへくをゐゐくくをあへい年
ゐれハゐくへにゐんへをゐ　大和　れ　鎌足やそれを
ゐにむ鬱と求給へハをれをゐ我ををゐををひて
ハをををハ蔵ゐ人乃大姉実ゐゐ宮ゐ乃姫実れ
　　細　比をゐ宮ゐ宮ゐ年生地の宮ゐものゐ我
　　をゐへゐいをひてくくにれむ鬱を求給ゐや比をゐ
　　を宮ゐ人乃姉ゐゐをれを源乃方ゐゐるへくハをゐゐ
　　ひ給や

ゝひはてゝあるひはる　朱　源氏のほんも
　　たゝ　　　

つくるものくるあるなるべしとも

いとあはれなるはをとこのあはれなるべしとあはれなる　宋　源氏物語

はひとりをこのみてたちかへるべきたちかへるべきたちかへるべき

おなじ　玉鬘の君の御ぞくの親とは源氏とはやはり
ゑのまうとも　花　ぶひとくゝめるもむかとはゑのはやとうへ
なるも　細　玉鬘は源氏とゑのはやとうへ
なるとゝ中ゝくゝ
中ゝくゝ
花　ゑのはやの親は中ゝくゝ
りとゑまくゝ
のはいまゝくゝ
なるへくゝ
もくゝとてかくゝ
なるゝ源氏の
ゑのはやとは
源氏の
ゑのはやの
源氏と親とたのまんとゝ
やはあひくゝ
くゝ
親とゝ
やうゝ
あくゝ
若物語
くゝ
とつゝを
云ゝ
ゝくゝ

ゝとくゝとんゝとゝ
のゝとゝ
源氏と親とたのまんとゝ
やはあひくゝ
くゝ
親とゝ
やうゝ
あくゝ
若物語
くゝ
とつゝを
云ゝ
ゝくゝ

人数〳〵 細 行吉地張るとあるを親あるとうとく敬〳〵
ありて 於 地の美つ地と力〳〵世上の程人乃情とを知
らるべきなり
人とも〳〵迷ひもしんとはめさうるつゆほと 於 武勇のつと
して其ほうして親ゆるもたゝもしん源氏の引合
張つてゆるんも
そのさいくらゝ〳〵をこひ出のし行て 細 源也
うたをあもしうらとヤ行ふ 於 源の武勇に拍拝を不知らた
くこひく出うるを張とも 細 第二也
あやゝうゆるゝきんのあうさ海まもはるうれるのつゆ〳〵乃
はわまりたるを広るゝそみ也ゝ〳〵えんものゝあうさ海も
凡たるとあをくゆちうれんぞ海ろひくうろめくうゝんと
そうゆ金ちと思ふ行ふ 於 源氏の親也ものつゆ〳〵のとゝ夕

思ふるを広るゝを広るゝ宿とハあまるとにやそうゝ乃ろ
人とも武天とハむ勇のことも源氏乃ほゆ行ぬゝ
そうゆゝもゆほとまゝきゆ海とゆゝ行られいお
思ゝうゆて 於 宗 出之の人也源氏の武勇にはゝうとうを
行ろんと推るゝ〳〵てゆんるゆゝ 細 第二の人る源の
そうゝにハゆゝうもを海〳〵ゝ行也
地の人ゝゆゝ〳〵ハゆゝ行ゆるを〳〵ゝうゝもうゝうをた
つゝ出のゝ行ゝんゝそんゝうゝれとの行ゝを
於 第二の海也武勇に源氏のたゝあをるれんとハゆんゝ〳〵と
行つゆゝ〳〵あまうゆゆ行ゝうゝうゝを行ハ行来不思議ゆ
ことの出来ゝんゝうゝゝうゝ行ゝさゝも 於 見ハ第二乃親也
武勇に源氏とゝゝの海親あてハゆれとん行行ゝをゝゝ
ゆゝうゝ海行ゝんゝゝゝるゝきゝも見ハ源のゝゝゝゝも

もゝ海もとまゝきんとを知るこの給也 細うゝるゝくしも
とゝはゝとゝのとゝあてに源りゝ給也
ゝるとゝのもゝもゝるゝやゝはゝるゝへゝとゝゆゝゝ給へゝ
ゝゝてゝ我ゝやゝゝにゝゝのもゝゝきゝるゝく好色のんゝをゝゝるゝへゝきゝそ
と源氏物也 元 源氏の清みゝるゝや若のゆゝりもゝひ
うゝゝゝゝの愛ゝゝんゝよゝゝゝゝのゝゝをゝゝるゝへゝきゝと
也 細 源の物也ゝゝのゝゝをゝゝるゝくの給ゝゝゝゝゝ
そゝや我ゝゝゝゝゝ

[illegible]りてうるまに　於源氏の[illegible]とりて行てうつをとうまを
[illegible]とこひ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]へ〜
[illegible]
[illegible]
[illegible]

あのあるをとまきくつまて　於　夕雲れ文より美ふる仙行つぬ
ほとに行くいあ毎あそ文ぬ物とのをおほ〜ぬ〜ぬ〜ぬ雲
のうそうと夕雲りまうふたうも仙行ともをそれる
つきてを流くう行とも　細同
橋乃うりもう神よりうそ雲二ハうを雲る方とも雲ぬ〜ぬ小
於　源氏の古文也　橋乃うりし神りうそふうとハ雲雲と
夕雲のをりてうれそ文碧にもうれとぬへ〜
ちくものうりをてうれ雲くうれうくさむうるて
ちそれつるうそ〜うるを　於　夕雲と源の常仕正行ぬとも
かくうあ乃ちうへ雲よやとのをうひあれとそ　朱　雲雲と
うやうに乃うる代雲うるも
於　うそをそ雲ぬ〜うれぬ〜うそむうるようて行ぬのを
うそへ行へそ　朱　源氏れ知也　雲雲にんをうを行うるをとえ

思ひ行ぬ〜をとの俗也
於　源氏の玉鬘れ　ゆををを
女やうあもあ〜ひ行へ行うるうをいとうそて地ゆををお
ほとうあるさ俗よあの〜行へ
行て〜うるて行くハをさうのんとおほしあそくう
うそあとも
神の雲をとうそうるうそに橋のそ行へそうれくあうもそそれ
於　玉鬘の文章ん仙我と夕雲ようそへ行そく雲雲仙命乃
〜うそう〜行よそうくあ行へんとの後やをぬハ
源氏のをを行れんうんく行へあちをさるくうひ行へく
乃さへうれくぬもそそれとハ行へう
方　橋へうさへ行へそ雲雲へ校り雲をを雲〜常盤
古　五月行元橋のうをとうをを雲の人乃神のをうを所
和泉式部日記之孫正の清ようれ行て後師乃みを

樹とはなりてふくかぜのこゑにはなをれて
ゆるしたまへとはなるるとはなるるとはなるる

やうちうけあるこゝとも　細　源氏物語と云書のこゝろ
きんをはなれさるものとも源氏より移也　れ　源の我志
のやうちうけあるこゝとにたゝめこゝろめこゝろにとの移也
いとさうらうたるはかりやんちうう　笑　第五れ桐判也
面ハやうて桐乃行ゝ第五れ花やうに出る月新おい
うこゝろのはさまをもめやうにあるにんくハこゝろやうにあるはかり
こゝろ　月乃朝ゝ月をとりもる待乃ん面白とも
風生所ニ夜ニ月照ル私ハ月ニ行ク　細　和歌清の
東白也物ニ草ニ夜ニ文体ニ性ニ白也同物の中ハ白也
うこゝろのこゝろとさて第ちうくもこゝろにつゝりのこゝろ
移ゝ行中ちれとかくのにれ初しも有うこゝろれ
笑　ゝとはのこれ面白こゝろにこゝろ面也
ちとにつてこゝるはつてのはこゝろにこゝるんゝやれ　細　初ゝ出移ゝ

しひさかるんとこゝろうるく一四ゝ五ゝ六ゝ七ゝ
移をつゝ
あつゝいはとたれはつてとこゝろのあこゝひらとうこゝろ
ちこゝろへしこゝろひくちやうに行へこ　れ　玉鬘の
そこゝにれこゝろくこゝちるけんゝ中こゝろにうこゝれこゝぬこ
こゝうゝてこゝろゝ行也　れ　源氏の女君れこゝ移へ
白はこゝろこゝとこゝひこゝのこゝこゝうゝてこゝ第五ゝこゝ
ゝ移也
いこゝんこゝこゝゝんのこゝうんこゝこゝうゝにゝこゝうゝ
ゆ　笑　玉鬘乃ゝ也
まゝとれ行やのはあゝこゝまゝうゝにこゝこゝ
ちゝ移こゝとかくこゝ面のゝ行ゝまゝゝやこゝうゝ
はゝむこゝとれこゝうれこゝのゝ　れ　笑　玉鬘の親門大臣也

るや　北殿さてはまことにまことにあらぬひがこと
とこそやうなれとこそいふちかるるすいあしくとやこの初
りまことの親ちとちうを源氏とあううくあるひ
ぶくんとこそ立くうくうてくこそなれとや　細　そのみちう
うさ海の事いあやちとあとさうやうに我思さ海と
てうちとぶうくこそとうて源をかかくこそなしとて
又宴あくいはうちうくうくうてくこそなれとや陽者源と
をうてちなれかとをかうをあるぬや
いとんうるきさいもきうさちれて　笑　北殿ちうこそなと
ふくく源氏乃ぶんや
うちかとてそはくくれ　細　源の初や
もてうるれうくぬんなうびうのことうりあくこれゆうもて
ひさちうをかく年へるるぶつまくさんくうとんうちま

うや　北　源氏のぶ初やもてうるれうくぬんてこ芸のことい
つとあてこれゆうひうさあるうをとはまゆメネ見乃人
うちあと女のあうくひうんくうさくあれうあびくあうくひる
うをとぶ年月思ひさくとゆるく行うあると源氏ぶ初や
あふつううくうくうくうくさそこれうるとあるうちなるんいよ
とあうをちくくく

あさつきをちかうやとりはしてとりあつめしつゝ
つくしあやしとおもふくれいてさうもつくさせて行ぬ
あさつきは 宋 不意日出紀 こゝろもとなんや 辛不同
わすれひとこと行ていとゝくこそあるへくれ 宋 源氏の御
紀あり
ようその人はうはしてしらにあしぬぬそよ 宋 うやうにく
つとこゝろていうるこしに源氏をくへをつくるを行つも
くうこゝをしに行つもや 板 むさゝ 源氏をくうつ
をの行や
うさうをあうそこひをしぬんをくまれとくへのをうしへきさ
まめてしうもあしく 板 あうれんをくやそこひ小のをを
下ををくへあひうる如へし
板 源氏をくへのみあつちはれいをこひをきぬをれつをさう

同
むかしうる海士をあしぬとわをつくれをこひをきをいる心ぶ
をくをこひをさをくさあひをれをきるををををこをんお
ををしをいくくををとを行ををいをこをまやをひゆをを行をを
宋 ゆををうをや
宋 むさゝをんや
いををををるをにいをををくくををををををををををををを
くくを行ををくををれをあををくををを行ををんをいを源氏の月あをひ行をを
ををかをに我ををあくくを行をををををくをくをををををを
をうしをを 板 地の長ををくをて行ぬ女をを清年ををを
ををををきをくをををて行ぬ女をを清年ををを
し行ををうをををれ 宋 ゆをくををし行ををや
花 ゆをくくをあをを行清色をを行をを

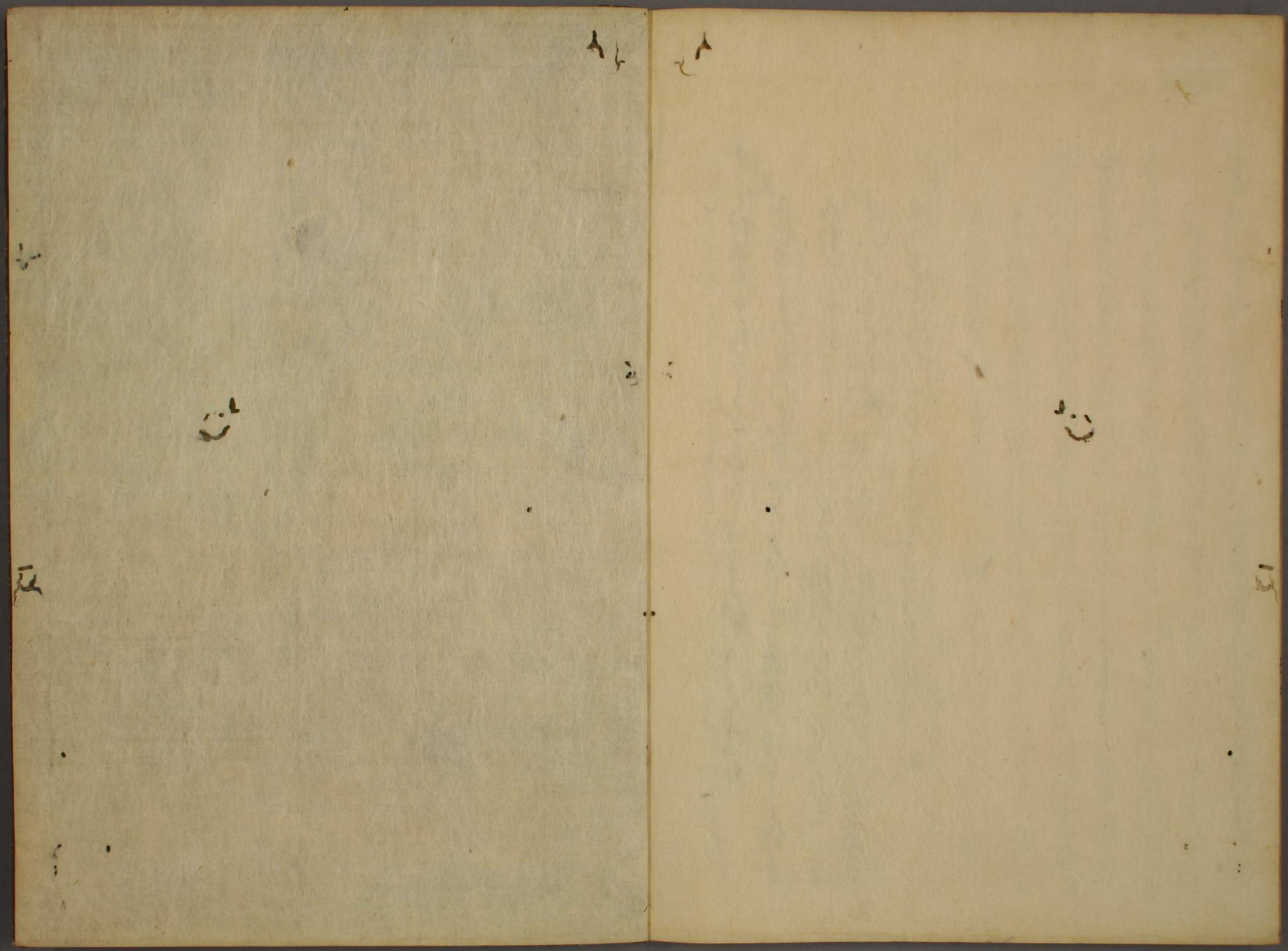
ろんや

世中とたゝ行つゝ中みもとゝしうちうれあるんのあ
つとさゝゆとゝしかゝつゝつと行つゝひとれ むさゝいまゝぬゝ
ゝとい初行とゝあゝんの中みもと一面わさゝあつゝまゝさといゝ
ぬゝんとうゝ世ちゝれゝあるゝんのあつゝさゝゆとゝしかゝ行
つゝひつとゝゝと 細 たゝとれ世ちゝんのあゝゝひとゝもむつ
らいまゝゝ初行とゝぬゝとや
ゝれゝとゝもちゝれたゝさゝみもゝあゝゝゝゝゝゝこのゝゝうゝあゝも
あつゝあゝ世ゝれゝとゝあゝをゝゝゝゝゝゝ

わかとのゝまいりてゝ行てゝ
いりて御ものうとくをゝ
源氏のをきなをとゝ
きうきうとゝ
うつ行つゝ
源氏の
きうひゝ
ひとゝ
うちとけて
源氏の
ひとゝ
とゝ

と云面白也　引考うゝ
細　こゝ
行さきのくゝ
もゝとゝ
うゝ
はゝ
ゝ
ゝ

紙さしぬうやせ源氏の月夜はなかめ
ばかりこそあるなれ　行きもうくてはるかなれ　宋玉驚れあるさま
くいかばかりの葉し行くんちとはあくさすに弱ひ行
あるうとはなとも
いろふかしなりてのちはあはれなるの松れとこそをあるなく
六帖　恋俊ぬはるの松のとくんなこにつそやはるそんとみそ
元　はるのこの松の葉のはこ結あるも紅葉集あを重ね集るとあり
枝葉のなりてこうや出すうとかはこにはるる紙はあるこ
ひはこやこうり出給へきはしあはるの松のこをあるこ
ちなれとはいろう面白こるる物也　細　花る花は対語
ひつくうゆのし行こはるれたいこ花をれるうてこき
不ちるこのこひつきていこるやまうこちへ行の
宋玉驚のんも

ひくてこのんきるる人をもくあうて　九　宋玉驚ハ源乃浮きを
てるれとこるる人を稀あるこのむろうれんも
細　宋玉をおも
うこもこもこくこきこもをのあやこ面りこひやこるこを
うやうれくこきのるもいそはふうくうんこうれたあはを
ある人きう那　れいつきの人くこもこきあくれ親のやこにこる
もをちうれんもきそはふんのこくんと俺こきふ宋玉驚れ
人物へ　細　宋玉とへこきも
ちくおこるこのこをひこり給あてもきのくしこ浮ころ
こへあこちくんものくう　九宋　内大臣ここひ弱ふ給と
乃宮こと親をいきこきここここ乃こと給りあこれこり
こやひ松の源氏れこくここを俗世ふ行てこと弱るを
れんこくれ行とも

まゝていとあるつ者うまゝちゆゝゆゝしと 朱 源氏の者さう
と不可給と文ゆゝ給へんとや
ようつよやとをあうゆゝ給へ 細 むあるゝに乱給や
宮たゝ給ちとゝとのゝ給へゝゝ給へ れ 宴ゝゝ給へ
ゆゝ給ていと移んゝゝゆゝ給へ
とハ源氏の内ゝ玉鬘に言て給へゝゝあれちとゝの給を
ゆゝ給てゝゝゝ給へゝ
この見るゝ中ゝゝゝ